

日常的な業務の工夫による検証改善サイクルの充実を図る取組の視点（広尾小学校）

広尾町立広尾小学校 教諭 水野宏美

1. 授業改善等支援事業に関わって

広尾町は、平成29年度より「ほっかいどう学力向上推進事業『授業改善等支援事業』（3カ年）」の指定を受け、町内3校（2小1中）で広尾町の子どもたちの学力向上に向けた取組を進めてきた。

- (1) 町内3校のそれぞれの学力向上に関わる取組の交流、全国学力学習状況調査・CRTの分析結果の交流
 - ・ 「主体的に学びに向かう児童生徒」を育成するための授業改善、体制整備
 - ・ 家庭学習の習慣化に向けた取組の強化
- (2) 小中共通の取組（主に学習規律）の実施、アンケート調査（児童・教職員）
 - ・ 小中の滑らかな接続を目指し、共通の指導を行う。
 - ・ アンケート調査で定着を調べるとともに、児童や教職員の意識化を図り、主体的に学びに向かう児童生徒の育成を目指す。
- (3) 管内のミドルリーダーを招聘した研修会の開催、外部講師を招聘した授業公開
 - ・ 各校の課題やニーズに応じた研修会の開催（メンター研修、習熟度別授業、教材研究）
 - ・ 外部講師を招聘した授業公開（H30 国語科・R1 国語科、学習習慣）

2. 本校の今年度の取組

- 教務部・研修部が連携協働し、「**児童の学びの整備・充実**」を目指して、これまでの取組の見直しや強化に取り組む。
- 長期・短期のPDCAサイクルの中で、「**児童の学びや育ちを評価**」し、授業改善や学級経営の充実を図る。
- 学級担任の半数以上が初任段階の若手教諭であることから、授業づくり・学級経営の両面において、日常的に実態把握やきめ細かい指導を行う。

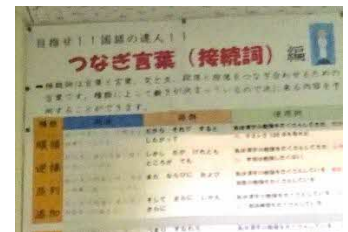
(1) 校内研究を中心とした授業改善（研修部、指導工夫改善担当）

【P】全国学力学習状況調査、CRTの分析結果とその手立てを研修日よりで発信、情報の共有を図る。

【D】改善に向けた手立てを意識した授業づくり

【C】研究授業ごとに児童の学びに対する姿勢の変化について評価・検討

【A】学びを深めるための学習提示の共有化を行う。学年の実態に応じて活用する。（例：目指せ！国語の達人～接続詞編～、立腰など）



(2) 学級経営の確認体制の整備（教務部、授業改善担当）

- ・ 学級経営に関わる事項（学習規律、教室設営、学習環境の整備、給食指導、清掃指導など）に学級や学年間で差異がないよう、授業改善日よりや定例の打ち合わせで確認を行う。
- ・ 学年代表が定期的集まり、学習進度や校外学習の計画など学習や学級経営に関わる取組を交流する。
→ 今年度の1回目の打ち合わせでは、カリキュラム・マネジメントの視点に立ち、運用上の問題を出し合い、適正に履修されるように計画の修正を行った。